

R 元. 10. 20 未就学児意見交換会

出席者 14 人※託児 5 人

町教育委員会：森教育長

事務局：黒石教育部長・下條教育総務課長・竹本班長・永井指導主事・寺口指導
班長（書記）

1. 開会

13:00～

2. 挨拶

森教育長から

3. 説明

- ・永井指導主事 「二宮町小中一貫教育校について」

- ・部長「小中学校での意見交換会の意見について」

学区について・通学路について・単級化について・通学距離について・
学校の施設について・グラウンドの使用について・新設校について・2 回
目の意見交換会について

- ・課長「今出ている案について」

7 案について

4. 意見交換

山西地区住民：小中一貫教育は良いことだと思います。住んでいるのは赤丸の地区で、通学距離が 2 キロを超えています。山西小学区なのですが、一色小まで歩いて行くのは、山を越えなければならないので、小学 1 年生が山を越えて通学するのは現実的ではないと思います。それ以外の部分はやってみなければ分からないと思いますし、通学距離は、遠いからと行きたくなくなってしまうのは、困ると思いました。

部長：赤丸の地区は、一色小学校に行くとしたら遠いですが、二宮小学校に行くというのも 1 つの案だと考えています。地域とのかかわりを考えると学区の変更も考えていくのも大切だと考えています。一色小学校は、地域に 1 つしかないのに残し、二宮小学区は、二宮小か二宮中、山西小学区は、山西小か西中のどちらかをというようなことも検討しています。

越地地区住民：通学距離が気になっています。学校を再編していくと、学校ごとの特性が出てくると思います。他市町村だと、学校の選択性もあるようです。二宮町の児童・生徒数だと、学校選択制を取った場合に、収容出来る人数なのかと気になりました。地域がとても大事だとは思いますが、今山西小学区に住んでいて、近所のお子さんが遊んでくれたり、年配の方が声を掛けてくれて、地域の方に育てられていると感じていますが、そういうつながりは大事だと思うのですが、通学はやはり心配ですので、選択制ということも考えていただけたらと思います。

部長：今でも中学校だと部活動で選択性を取っています。二宮中学校と二宮西中学校で 1 方にしかない部活に入りたい場合、学区ではなくても、そちらの学校に行くことが可能になっています。選択制を取ることも 1 つの方法です。小中一貫校を作った場合、その学校に特色を持たせて、選択制として募集をつのるというのも一つの方法だと思います。お話にもありましたが、地域で子どもを育てていただくということを考えると、住んでいる所のつながりというのも大切です。通学の負担が少なくなるような形で、2 校にこだわることなく、検討を進めていきたいと考えています。

百合が丘地区住民：小中一貫教育、今までどのようなものか分からなかったのですが、今日の説明を聞いて、面白いと思いました。小中一貫教育をやってみたらいいと感じました。一色小学校に近いので、西中学校が来るのはいいと思いました。遠くに住んでいる方もいるので、通学距離のことは、本当に良く考えていただければ、小中一貫教育に賛成です。

百合が丘地区住民：小中一貫教育はいいと思うのですが、一色小学校の単級化が問題だと思います。今現在 6 年生は 2 クラスで、他は全部 1 クラスということで、2 年生は 22・23 人しかいません。単級のメリットもあるとは思いますが、どうしても閉塞感があります。単級化だけでも解消できると思います。一色小は校庭も広いですし、地域に開かれているイメージがあるのですが、二小が 4 クラスもあり、山小が 2 クラス、二小の山西小学校に近い子が山西小学校に代わり、山西小学校の一色小学校に近い子が一色小学校に代わると、例えば、井上整形外科の近くの宅地に引っ越しをした子がいるのですが、あそこは山西小学校に行くにも、一色小学校に行くにも同じぐらいの時間なのに、学区としては山西小学校なので、学校が変わってしまいました。そのような地区を変えてもらえれば、単級化が解消されると思います。一色小学校の子どもも二宮西中学校に行く子もいるので、山西小

学校に行くのもいいかと思いました。一色小の奥の人はどうしても通学に遠くなってしまう子もいるので、コミュニティ・バスを出してというのもいいかもしれませんし、まずは単級化を解消してから、小中一貫教育校を目指していくというのがいいと思います。

教育長：今、5つの学校にコミュニティ・スクールを作りました。地区で学校をバックアップする組織を作っていて、今ある学区を触らないで学区を寄せることで、今回の案を作りました。この案をなぜ出したかという、今ある学区をいじらない、切り崩さないというのが大前提にありました。今、お話を聞いていて、いつかは一色小学校の単級化を解消するとか、二宮小学校のマンモス化を解消するということにメスを入れるということになると思います。それをするのは今ではないと思っていたのですが、今お話を伺っていて、早めに学区の再編をさせていただいて、二宮小学校の梅沢の辺りは、山西小学校に近いですし、お囃子なども、一緒に行っているということで、子ども会なども一緒に行っているということも聞いていますので、2つに学校をまとめる案にこだわらないで、小学校区を大切に、3つの小学校区にそれぞれ小中一貫教育校を作ったらどうだろうかということも考えています。ただ、山西小学校と二宮西中学校を一緒にして、二宮小学校と二宮中学校を一緒にすると、一色小学校はどうするのかということが問題になります。そこにも小中一貫教育校を作りたいです。そうすると、1校増えてしまいますので、一色小学校区に義務教育学校というのを作るとするのも視野に入れて考えていきたいと思っています。二宮小学校区は小中一貫教育校になることが出来るのは令和12年ぐらいと考えています。一色小学校は、このままだと単級化のままになってしまいますので、山西小学校も令和4年・5年ぐらいになると、単級化になることが予想されます。3つの小学校区に学校を作るということも含めた案も2回目の意見交換会の時に提示したいと思っています。今までの意見交換会であった意見として、県道で縦に割って学校を作る案など、様々な意見をいただきましたので、色々な案を検討していきたいと考えています。自由学区というお話も出ましたが、今は片方しかない部活に入りたい場合は、学校を変えることを認めています。3つの学校を考えると、部活動については、校庭の使用はどうするのかとか、心配する声が聞かれます。全部の学校に全部の部活がなくてもいいと思っています。子どもたちにとっても、自分で学校を選んで、その学校にあった部活動、子どもたちにあった部活動というものを考えていかなければいけないと思っています。子どもたちも自分の将来を見据えた、どういう道に進みたいのか、その子の希望にあった部活のある学校を選ぶというのもいいと思っています。学区の

再編というのは、兄弟だったり、色々な問題があると思いますので、区切り目の年にはじっくり精査して皆さんの意見を聞きながら、納得していただけるようなものにしていかなければいけないと考えています。

緑が丘地区住民：単級でわきあいあいと仲良くやっているの、一色小学校の良さだと思っていたのですが、単級の人間関係が狭い中での煩わしいということもあるので、小中一貫教育はいいことだとは思いますが、一色小の単級化の解消にはならないので、まずは単級化が解消されるといいと思います。オランダのイエナプランという教育方法が、子ども主体の教育で、学年もごちゃまぜになっていて、異年齢が混ざったクラスで学習していく教育があって、すごくおもしろそうだと思います。学校の宿題を全員同じものを行っていることなどに、疑問を持っていたりします。子どもの個性というのは兄弟であっても違って、先生が何十人とみるので、大変だとは思いますが、みんなが決まったことをやるのではなく、違ったやりかたで教育が出来たらいいのではないかと思います。一色ではコミュニティ・スクールを先に進めていて、色々な活動がされていて、会社で働いている方がキャリア教育を行ってくれたり、プログラミング教室など、地域の人を力を借りて、子どもにいろんな世界に触れる機会を与えていただいている、すごくいいなと感じています。また、上の子は、自主学習という形で、自分の興味をもったことを1日1ページ2ページまとめてやってくるなどという宿題をやっていて、自分が興味を持ったことだと、すごく楽しそうにやっていて、すごくいいなと思っています。学区や児童数など、人数的なことも大切だと思いますが、イエナプランのような、特色がある教育を進めていただいて、学区を選択制にさせていただいて、他の学区の子どもたちも一色小学校のやり方に賛同される方は来ていいですよという形にしていけば、一色小のエリアの子どもたちだけではなくて、広い視点で、町外からも受け入れられるような形で、特色を持たせた教育が出来るといいなと思いました。部活動だけではなくて、日々の学校生活でも学校の特色が出たら嬉しいなと思いました。

教育長：特別支援学級の中では、学年の枠は超えています。指導要領には沿わないで、独自のプログラム、個別支援計画を立てて、その子が将来卒業したらどのような所に、就職できるのかという就労支援、今身につけるべき技能など、その子にあった個別支援教育プログラムを作って、小学校では行ってきました。中学校では教科担任制なので、自分の担当教科を持ちながら支援学級を持っていますので、教科ごとに担当の先生が変わります。小学校では、学級の担任の先生が、その子に本当に必要なものは何かを考えながら、交流

が必要であれば、支援員さんと一緒に通常級に交流に行ったりもします。そのように、支援級の中では、イエナプランのようなことを行っていたのですが、県ではみんなの教室という、判定されて支援級には属さない子ども、ボーダーの子にも、支援教育の輪を広げていこうということで、その子にあった勉強をするという取組を研究しています。しかし、教員の数がなくなってしまったため、茅ヶ崎や海老名などの一部の学校でしか行っていません。一色小に少しでも子どもたちが集まってもらえるようにと、新たに特色をつけて、個別の教育プランを支援級の子どもたちだけではなくて、ほとんどの子どもたちに個別支援の計画を立てていって、徹底的な個別教育というものを行っていけば、子どもにとっては物凄い力になるのではないかと考えています。このような9年間の教育方法を取り入れることが出来たらいいと思っています。今、二宮町では英語に力を入れて教育を行っています。大山小学校というところでは、単級化が進んでいて、学区を廃止して、教育特区という形で、そこではICTや英語をメインに打ち出したのですが、場所が不便な所にあるのでバス通学をしているのですが、3人の子どもに対して、5人の教師が教えていたり、特別な環境を整えたりしていました。二宮町では、二宮らしい教育ということで、小中一貫教育を進め、義務教育学校を作り、さらにイエナプランのような、異年齢の子が一緒に勉強していけ、個別支援計画を立てられるような環境が整えられたらいいなというのも1つの案として考えています。これから、2回目の意見交換会の中で、皆さんからの合意が得られれば、考えていきたいです。そのためにも、学区のことを十分に精査して考えていきたいと思います。適正規模という、標準学級数というのを12クラスから24クラスと、文部科学省が出しています。一色小学校は、来年6クラスになってしまいますし、いずれ山西小学校も単級化が見込まれます。そこを防ぐためにも、学区再編を2回目の意見交換会で話し合わせて頂ければと考えています。

二小・二中学区住民： 二中になぜ行くのかということが疑問で、あの海の近さ、これだけ津波等の災害があるなかで、なぜ二宮中学校に子どもを集めて、子どもを守れるのかという不安があります。二小の国道1号線を超えなければいけないですし、下校の時は、1年生だけの下校班で帰ります。国道1号線の西湘入口は渋滞がすごいです。その状態で絶対に事故が起きないのか、その時にだれが安全性を対応してくれるのかという、子どもたちが通学するうえで、国道1号線を超えて二宮中学校に行くことと、災害の問題。今回台風19号で二宮小学校が避難所になったのですが、その時に、二宮中学校まで子どもを連れて行けないという話をしていました。災害のことも含めて二

宮中学校に行くということは、良くないと思います。

部長：津波についてですが、二宮町はハザードマップを見ると、海拔が梅沢海岸のところが少し低いですが、20メートルぐらいのところがほとんどです。二宮中学校は25メートルぐらいです。あくまでも想定ですが、一番高くても14メートルですので、想定より高い場所にあるということで、大丈夫だろうということですが、想定外のことがたくさん起きていて、想定内だから大丈夫というわけではないのですが、そのような想定の中で話を進めています。校舎の強度などもこれから調べて小中一貫に向けて改修していく中で、校舎自体の強度も高めていきたいと考えています。また、仮に津波が来てしまった場合についても、津波タワーのような上に避難するということも考えていかなければいけないと思っています。国道を渡っていくというのは、交通量が多いので危険だというのは認識しています。今も梅沢や上町の子は国道を渡って通学しています。上町の子は歩道橋を渡って通学していて、梅沢の子は横断歩道を渡って通学しています。ですから、地域の方が見守りをしてくださって、十分注意を払っていただいている中で、子どもたちは登校しています。富士見が丘の子どもたちが二宮中学校に通うことになれば、歩道橋を渡ることになると思うのですが、地域の方にもご協力をいただいて、登校することになると思います。

課長：二宮地区としては、二宮中学校ではなく、二宮小学校の方がいいというご意見でしょうか。

二小・二中学区住民：二宮小学校と二宮中学校に通っている保護者からすると、津波等が重なった時期で、この間の19号の台風でも近くに住んでいる友人たちが風が強くて、震度2の地震のような揺れを感じたそうなので、そのような危険で窓が割れるかもしれないというようなことがある中で、想定を超えるというようなことが毎日のようにニュースでやっている中で、40年間で想定を超えないというのは、異常気象だと世界中が言っている中で、どうなんだろうと思っています。

課長：標高は、二宮中学校は高いんです。二宮小学校と比べると、二宮小学校は吾妻山という逃げる場所があります。二宮小学校は5校の中で一番面積が狭いです。運動会などは通るのも大変になってしまっています。そのようなこともあって、二宮中学校を選んでいました。交通安全についても、二宮交差点は、歩車道が分離で信号が赤になると思うのですが、全赤といって、全

部の信号が赤になる時間を大磯警察に言って、2 秒伸ばしてもらっています。そうしないと、子どもが渡っている間に、車が来てしまいます。児童生徒安全協議会というものを教育総務課で持っていて、大磯警察や民生委員さんや地区長さん、PTA の方などで、通学路のどこが危ないのか、毎年協議していて、危ないところは道路の担当や、大磯警察署などに相談したりして、少しずつ改善するようにしています。二宮小学校の方がいいというのは意見として伺います。

百合が丘地区住民：コミュニティ・スクールについて、学校の先生方から聞いていても、今まではイメージが浮かんでできませんでした。今回の意見交換会に参加して、緑が丘の地区の方が、小中一貫に理解を示していただけたことが嬉しかったです。もっと推進していただければと思いました。

百合が丘地区住民：小中一貫教育はデメリットもあるかもしれないとは思いますが、魅力を感じます。一色小に通う地域なので、単級が気になります。いいところもあると思うのですが、人間関係につまずいた時とか、何かあった時に、逃げる道がなくなってしまうと思うので、早めに何か対応していただけたら嬉しいです。

課長：中里と梅沢の方はいらっしゃっていないでしょうか。7 月の意見交換会の中でも出た意見なのですが、中里が一色小学校に行けばいいのではないかと、という意見もありました。そうすると、一色小学校が複数学級になりますが、山西小学校が単級になる可能性があります。そして、梅沢が山西小に行けばいいのではないかと、という意見が出ました。そうすれば、二宮小学校の児童が減ることになり、2 クラスから 3 クラスになると思います。それで、一色小学校の単級化が解消され、山西小学校の単級化も防ぐことが出来ると思います。先程、教育長と部長が 3 小学校に 1 校は学校が必要だいう、地域の意見は重く受け止めていますということをお話させていただきました。学区を変えない限りは単級は解消されません。その時に、焦点になるのは、中里と梅沢です。中里の住民として、どう思いますか。

中里地区住民：今住んでいる所からだ、一色小学校の方が近いと思っていたのですが、学区を調べてみると、山西小学校でした。中里から山西小学校に通学する場合、坂を登って、トンネルを超えなければいけないので、山西小学校の方が心配です。ですから、一色小学校に行くのもいいと思います。切り替えの年に、実際にどうなるのかというのが心配です。